

大阪を生物多様性の トップランナーに！



調査

外来生物の分布状況調査
野生鳥獣の被害対策検討など

活用

自然を活用した防災・減災
生物多様性の活動支援など



野生動植物の生息状況把握
希少種の生息環境の保全など

生物多様性に関する教材作成
体験学習、環境教育など

保全

淀川城北ワンド
(イタセンバラの保全活動を実施)



普及

子どもから大人まで、たくさんの
人が大阪の生物多様性を知り、
関わっていただけるよう普及に
努めます。
(自然環境グループ 近藤研究員)



生物多様性とは、さまざまな生物や生態系がもつ個性やつながりを表す言葉です。

生物多様性は、きれいな水・土・空気を守ることを以外にも、農林水産業・工業などを通じて、さまざまな恵み(**生態系サービス**)をわたしたちの生活に与えてくれています。

大阪の生物多様性を 調べ、守り、活かし、広めます



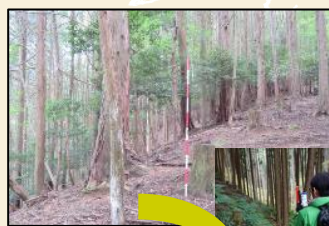
地方独立行政法人
大阪府立

環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture

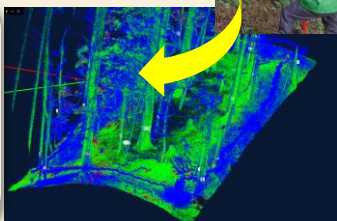
府内森林のレーザー測量-森林材積の把握-



森林を適正に管理するための調査研究を通じて、わたしたちの暮らしを守ります！
(自然環境グループ 土井主任研究員)



調査区



3次元点群データ

LiDARを活用した調査

ネイチャーポジティブ社会*に向けて、自然に根差した社会課題の解決策(Nature-based Solutions, NbS)が注目されています。

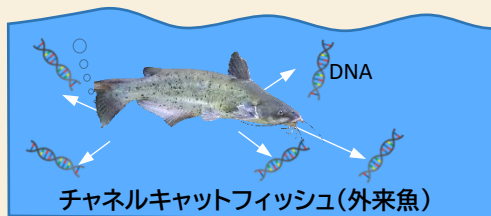
森林は光合成によってCO₂を吸収して成長することから、気候変動対策の重要な役割が期待されています。成長量を正確に把握するためには、基準となる年度から期間を経て成長した材積(樹木の体積)の把握が必要ですが、これまで府内の森林では、特に高齢樹の材積の正確な測定はできていませんでした。そこで、環農水研では、レーザー光を利用したLiDAR計測システムを活用して、高齢樹を含めた森林の材積の測定を正確かつ効率的に進めています。

* 生物多様性の損失を止めるだけでなく回復させること。
生物多様性・自然資本領域の世界共通の目標となっている。

大河川における効果的な外来魚対策-環境DNAを活用した生態調査-

環境DNAとは、環境中に存在するDNAのことです。川や池の水中には魚などのDNAを含む糞や粘液などが漂っているので、水中のDNAからその水域に生息する魚種や繁殖時期を調べることができます。本手法は、調査範囲が広範囲にわたる大河川の調査にも大変有効です。

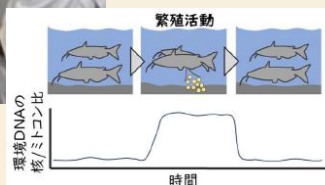
そこで環農水研では、環境DNAを活用して大河川における外来魚の生態を解明することで、繁殖個体を狙った捕獲を行うなど、効果的な外来魚被害対策を進めています。



チャネルキャットフィッシュ(外来魚)



分析



繁殖行動、場所の特定

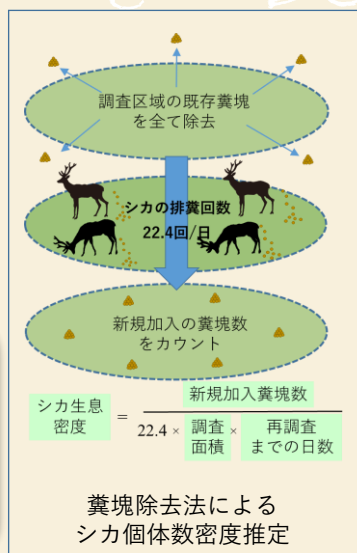


環境DNAを活用して、チャネルキャットフィッシュの生態を解明し、生物多様性保全につなげます！
(自然環境グループ 古澤研究員)

野生鳥獣との共存をめざして-科学的データに基づく個体数管理-

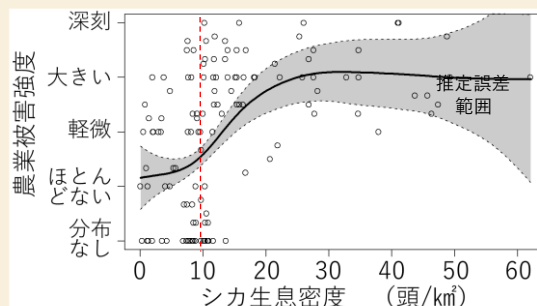


人と自然のより良い関係が構築できるよう、これからも大阪の生態系を見守っていきます。
(自然環境グループ 幸田主任研究員)



大阪では、シカは主に北摂地域に分布しており、シカ高密度地域では農業被害が発生しています。

そこで、シカの計画的な管理のため、「糞塊除去法(左図)」により、シカの生息密度と農業被害との関係を解析した結果、密度が1平方キロメートルあたり10頭を超えると被害が急激に増加することが分かりました。



シカ生息密度と農業被害強度の関係

大阪府がシカの管理に取組む際には、この指標が用いられています。

